

(社)日本詩人クラブ例会・イベント 2015年1月

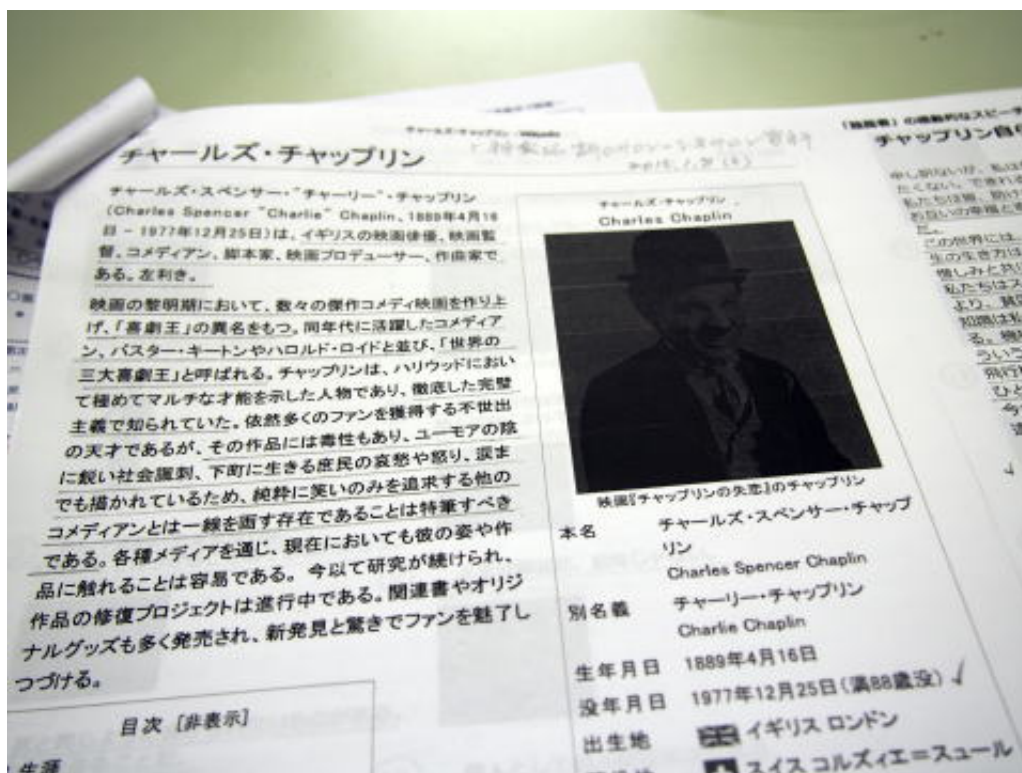
第33回 詩のサロン

日 時 1月8日(木) 18:00～20:00 (会費500円)

会 場 日本詩人クラブ事務所

チャップリンのこの世界—DVD (初期の傑作無声作品) 鑑賞

「街の灯」「独裁者」他





1月の詩のサロンは、昨年に引き続き、チャールズ・チャップリン作品の映画鑑賞会となりました。

今回は、「街の灯」「独裁者」の二作品を観賞。時間の都合で、ところどころ早回しをしての鑑賞と

なりましたが、映画の根底にあるチャップリンのメッセージは十分に参加者の方々に伝わったので

はないかと思います。

とくに、「独裁者」のラストの演説シーンは、圧巻でした。もう70年以上前の作品になります。でも、

今観ても、いや、今だからこそ、普遍的な説得力があります。チャップリンという人間の反骨精神を

堪能した、そんな気がしています。

(長谷川忍・記)

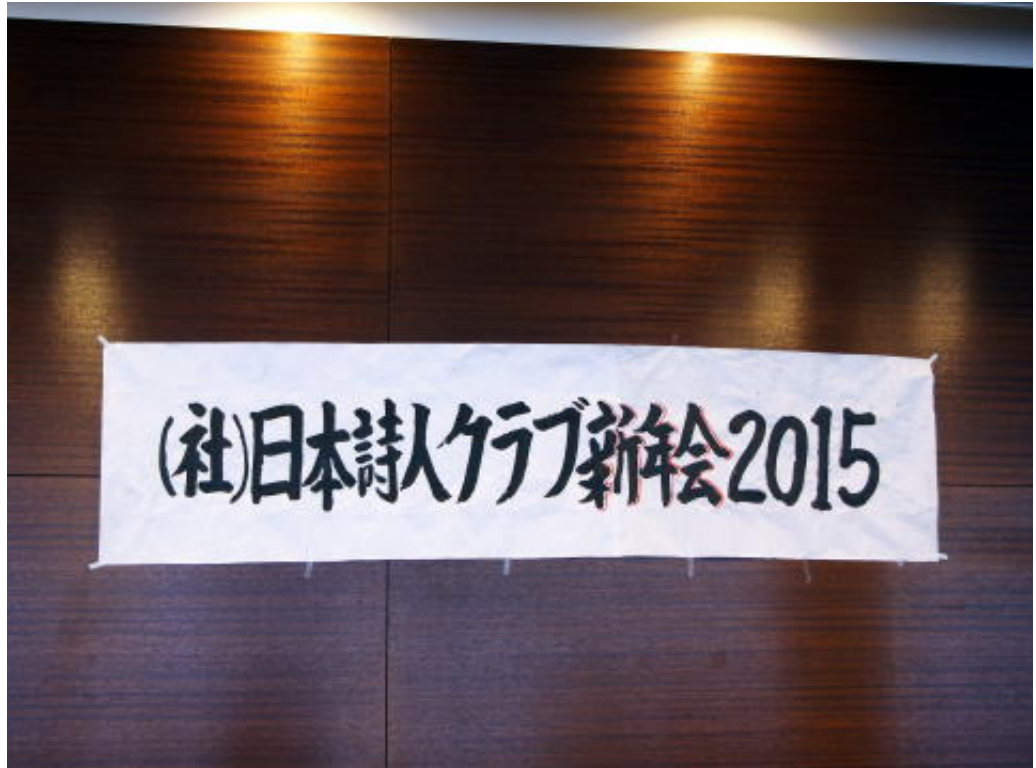
新年会

日 時 1月10日(土) 15:00より 会費 4,000円(当日、受付にて)

会 場 東京大学駒場キャンパス 交流ラウンジ（学生食堂3F）

〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1 TEL
03-5790-5931

京王井の頭線「駒場東大前」駅下車





細野豊会長（開会挨拶）



清水茂前会長（挨拶）



比留間一成氏（乾杯）



小山義和氏（アルプスホルン演奏）



川中子義勝理事長（閉会挨拶）

三連休初日の1月10日は、朝から好天に恵まりました。

東大駒場キャンパス、交流ラウンジにて、新年会が和やかに開催されました。60名ほどの方々が

集う賑やかな宴でした。この日は、ベテランヨーデリストの小山義和氏、そしてスイス在住のアコーデ

ィオン奏者のマダム竹下氏をお迎えし、それぞれに演奏をご披露いただきました。とくに、小山氏に

よるアルプスホルンの演奏は圧巻でしたね。音楽が入ると、やはり場が潤います。

参加会員の方々のスピーチや歌も印象に残りました。また、狩野敏也氏からは、越乃寒梅の一升

瓶を差し入れていただきました。狩野さん、ありがとうございます。

（長谷川忍・記）

新年会風景















(社)日本詩人クラブ例会・イベント 2015年2月

第34回 詩のサロン

(会費500円)

日 時 2月12日(木) 18:00～20:00

会 場 日本詩人クラブ事務所

内 容 「中原道夫の世界」(最新詩集およびエッセイの鑑賞)

ゲスト：中原道夫氏



中原道夫氏



中原道夫氏による講演は、「アイロニー」と「喩」というものを詩作の根底に据えた興味深いお話

でした。氏は、詩作は絶対に自分の体験から出なければだめだと説きます。そして、詩作にとって、

リズムがいかに大切かということ。今回の講演では、自作詩の他に、草野心平、相馬大、北川

冬彦、菊池貞三、山本みち子、といった詩人各氏の作品にも触れ、詩というものの醸す
味わいに

ついて、ユーモアを込め語ってくださいました。

とくに、奥様を亡くされて間もなく書かれたという「雪の朝」「保険金」の二作品
は、読者のひとりと

して、気持ちに沁み入るものがありました。参加者は、24名。盛会でした。

(長谷川忍・記)

2月例会

日 時 2月14日(土) 14:00～17:00

会員・会友無料 一般500円

会 場 東大駒場キャンパス21KOMCEE・レクチ

ャーホール

京王井の頭線「駒場東大前」下車。東大正
門直進徒歩4分。建物エレベーター1FよりB1へ

例会終了後、隣接のMMホールで交流会
(懇親会)があります。会費3,000円

朗読&スピーチ 岩重美江氏(川崎市) 薄井清美氏
(西東京市) 西野リーあ氏(板橋区)

講 演 『母、そして詩人 高田敏子』 講師・久富純江
氏



司会　長尾雅樹氏（左）　安川登紀子氏(右)



岩重美江氏（詩の朗読&スピーチ）



薄井清美氏（詩の朗読&スピーチ）



西野りーあ氏（詩の朗読&スピーチ）



久富純江氏（講演）



高田敏子氏写真（久富純江氏所有）



竹内美智代氏（講演進行役）



山本みち子氏（高田敏子作品朗読）



柳生じゅん子氏（高田敏子作品朗読）



「野火」同人の皆さんと



懇親会風景

2月例会のメイン講演は、詩人で、故、高田敏子氏の長女でもいらっしゃる久富純江氏による

『母、そして詩人高田敏子』。娘の立場から見た高田敏子氏の、生活と日常に焦点を当てたお話

でした。講演途中、会場のスクリーンには久富氏所有の高田敏子氏の若き日から晩年までの写

真が多数紹介され、会場に詰めかけた方たちの眼を奪っていました。

同人誌「野火」を主催して以降の高田氏は、多忙を極めたそうですが、詩を書きたいという氏の

熱意が、自身の詩作、ひいては「野火」での息の長い活動に繋がっていったのでしょう。久富氏の

お話は、分かりやすく、親しみの持てるものでした。講演の進行役は、竹内美智代氏が担当。

会場には、「野火」の同人でいらした諸氏が遠方からも駆けつけ、さながら同窓会的な雰囲気

を醸していました。会場には100名近い方々が集いました。、高田敏子氏の人気の高さをあらためて

実感した次第です。

(長谷川忍・記)

(社)日本詩人クラブ例会・イベント 2015年3月

第35回 詩のサロン

00 (会費500円)

日 時 3月12日 (木) 18:00~20:

会 場 日本詩人クラブ事務所

内 容 3. 11 震災詩&フクシマ被爆詩の鑑賞

(参加者作品含む)





3月は、昨年に続き、東日本大震災をテーマに、参加者から震災詩を募り、各参加者それぞれ

の震災への思いを「詩」の言葉で朗読してもらいました。朗読の前に、女優の吉永小百合さんの震災

災詩を扱った朗読CDを参加者の皆さんとともに、聴きました。和合亮一、佐藤紫華子、若松丈太

郎、各氏の詩作品に加え、小学生から高校生まで、学生さんの震災体験詩まで、吉永さんの、丁寧

な、抑えた朗読が印象に残りました。

参加者の詩作品朗読も含め、さまざまな震災詩を「体験」しました。大震災は、原発事故による被

害とも大きく関わってきます。参加者作品にも、それはたしかな形で反映されていました。

(長谷川忍・記)

3月例会

日 時 3月14日(土) 14:00～17:00

0 会員・会友無料 一般500円

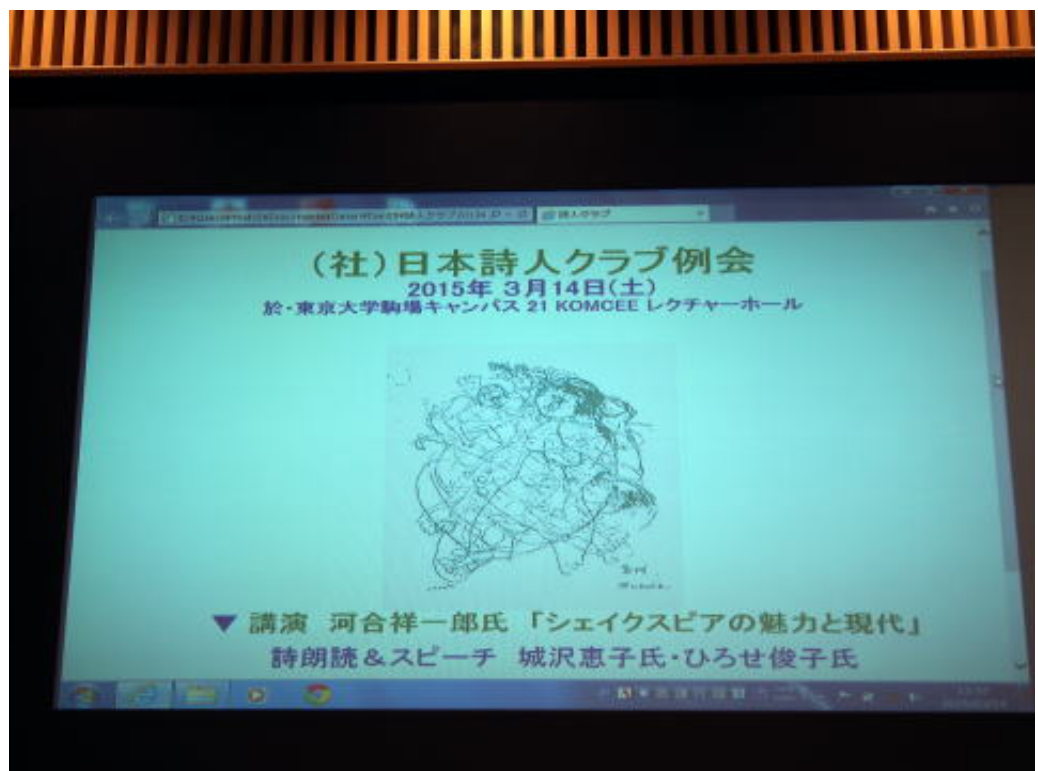
会 場 東大駒場キャンパス 21 KOMCEE・レ
クチャーホール

京王井の頭線「駒場東大前」下車。東
大正門直進徒歩4分。建物エレベーター1FよりB1へ

例会終了後、隣接のMMホールで交流
会（懇親会）があります。会費3,000円

朗読&スピーチ 城沢恵子氏（さいたま市）
ひろせ俊子氏（甲州市）

講 演 『シェイクスピアの魅力と現在』 講
師・東京大学大学院教授 河合祥一郎氏

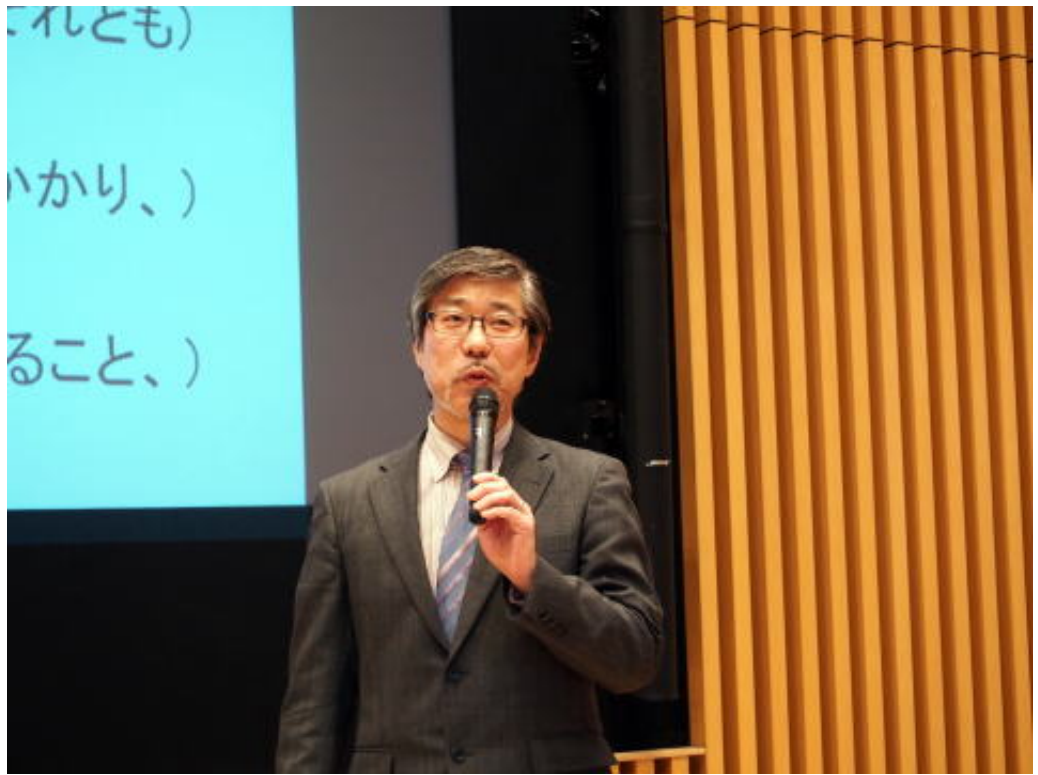




城沢恵子氏（詩の朗読&スピーチ）



ひろせ俊子氏（詩の朗読&スピーチ）



河合祥一郎氏（講演）

「シェークスピアの魅力と現代」

(社)日本詩人クラブ例会・イベント 2015年4月

第36回 詩のサロン

(会費500円)

日 時 4月9日(木) 18:00～20:00

会 場 日本詩人クラブ事務所

内 容 名詩の鑑賞と朗読)

直子編)の鑑賞

他一

伊賀ふで詩集「アイヌ・母のうた」(麻生

ーアイヌ語と日本語の対訳詩、日本語詩、

ゲスト 麻生直子氏



麻生直子氏



4月には、麻生直子さんを講師に迎え、アイヌの詩人である伊賀ふでさんの詩集『アイヌ・母（はぽん）』

のうた』を中心にお話を伺いました。北海道の自然と共存しようとするアイヌの人々の、柔らかさと、謙虚さ、豊かさ、そして厳しさ、それらを伊賀さんの詩作品から垣間見た思いがしました。アイヌ人の歴史は、彼らが受けた過酷な差別の歴史でもあったようです。麻生さんご自身も北海道の奥尻島のご出身。彼女のお話を聞き、複雑な気持ちを抱いた次第です。イランカラプテ。アイヌ語で、「こんにちは」という言葉だそうです。この日、初めて知りました。伊賀ふでさんの、笑顔のお写真と、この言葉が、ゆっくりと重なりました。参加者は20名。盛況でした。

(長谷川忍・記)

三賞贈呈式・祝賀パーティー

日 時 4月11日(土) 14:00～

会 場 東京大学駒場キャンパス 21KOMCEEレクチ

ャーホール

京王井の頭線駒場東大前駅東口下車1

分

記念パーティー 同ホール隣接会場 MMホール 会費

5,000円

贈呈式次第

第48回日本詩人クラブ賞

第25回日本詩人クラブ新人賞

第15回日本詩人クラブ詩界賞

司会 林 哲也 宮尾壽里子

1 開会の言葉

川中子義勝理事長

2 会長挨拶

細野 豊会長

3 経過報告

高山利三郎担当理事

4 選考経過

第48回日本詩人クラブ賞

齋藤 貢選考委員長

第25回日本詩人クラブ新人賞

竹内美智代選考委員長

第15回日本詩人クラブ詩界賞

武子和幸選考委員長

5 賞の贈呈

第48回日本詩人クラブ賞

詩集『角度』

柴田三吉氏

第25回日本詩人クラブ新人賞

詩集『うつつみ』

石下典子氏

第15回日本詩人クラブ詩界賞

『パウル・ツェランと石原吉郎』

富岡

悦子氏

6 受賞者の紹介

柴田三吉氏について

上手 宰氏

石下典子氏について
山本十四尾氏

富岡悦子氏について
神品芳夫氏

－休憩－（１０分）

7 受賞詩集から詩作品朗読

詩集『角度』から
柴田三吉氏

詩集『うつつみ』から
石下典子氏

8 花束贈呈

9 祝電披露

10 受賞者挨拶

第48回日本詩人クラブ賞
柴田三吉氏

第25回日本詩人クラブ新人賞
石下典子氏

第15回日本詩人クラブ詩界賞
富岡悦子氏

11 閉会の言葉
北岡淳子理事

記念パーティー次第

司会 小野 浩 田中裕子

1 開会の言葉

比留間一成氏

2 会長挨拶

細野 豊会長

3 来賓挨拶

日本現代詩人会理事長 北畑光男様

4 お祝いの言葉Ⅰ

甲田四郎様 (柴田三吉氏)

川島 完様 (石下典子氏)

大崎ふみ子様 (富岡悦子氏)

5 乾杯

清水 茂氏

6 歓談

7 お祝いの言葉Ⅱ

鈴木比佐雄様 (柴田三吉氏)

新延 拳様 (石下典子氏)

富田 裕様 (富岡悦子氏)

8 歓談

9 閉会の言葉



贈呈式司会 林 哲也氏（右） 宮尾壽里子氏(左)



受賞者

第48回日本詩人クラブ賞

柴田三吉氏（中央）

第25回日本詩人クラブ新人賞

石下典子氏（左）

第15回日本詩人クラブ詩界賞

富岡悦子氏（右）



川中子義勝理事長（開会の言葉）



細野 豊会長（会長挨拶）



高山利三郎担当理事（経過報告）



齋藤 貢選考委員長（選考経過）



竹内美智代選考委員長（選考経過）



武子和幸選考委員長（選考経過）



上手 幸氏（受賞者の紹介）



山本十四尾氏（受賞者紹介）



神品芳夫氏（受賞者紹介）



柴田三吉氏（受賞者挨拶）



石下典子氏（受賞者挨拶）



富岡悦子氏（受賞者挨拶）



北岡淳子理事（閉会の言葉）



記念パーティ司会 小野浩氏（左） 田中裕子氏（右）



比留間一成氏（開会の言葉）



北畑光男 日本現代詩人会理事長（来賓挨拶）



清水 茂氏（乾杯）



甲田四郎氏（お祝いの言葉）



川島 完氏（お祝いの言葉）



大崎ふみ子氏（お祝いの言葉）



鈴木比佐雄氏（お祝いの言葉）



新延 拳氏（お祝いの言葉）



富田 裕氏（お祝いの言葉）



山梨大会のご案内

古屋久昭 山梨大会実行委員長（左）

禿 慶子担当理事（中央）

瀬崎 祐氏（右）



中原道夫氏（閉会の言葉）



記念パーティー風景



記念パーティー風景

(社)日本詩人クラブ例会・イベント 2015年5月

山梨大会2015 ～果実とワインの里で詩も熟成するか～

日 時 5月9日(土) 受付 12時45分～開会
13時30分

会 場 桜座(芝居小屋・小劇場・ライブハウス)

甲府市中央1-1-7 電話 055-233-
20319

JR甲府駅から徒歩約12分

参加費 会員・会友1,000円 一般1,500円

第1部 13時30分～14時50分 司会 雨宮慶子

開会のことば 日本詩人クラブ山梨大会実行委員長 古屋
久昭(山梨県詩人会会長)

主催者あいさつ 日本詩人クラブ会長 細野 豊

来賓祝辞 甲府市長 樋口 雄一

理事長報告・役員紹介 日本詩人クラブ理事長 川中子義勝

自作詩朗読 日本詩人クラブ賞・日本詩人クラブ新人賞 受賞者

対談 「詩をいかに熟成させるか」 瀬崎 祐(岡山)&尾世川
正明(千葉)

第2部 15時05分～16時15分 司会 青柳和枝

講演 「山河の詩情」 山梨県立文学館館長 歌人 三枝昂之氏

自作詩朗読 小野ちとせ（埼玉） 酒井力（長野） 佐藤光江
（静岡） 山崎啓（岐阜）

群読 石原 武（甲府市出身・元日本詩人クラブ会長） 詩集より「冬芝居にもうしばらく」「扇状地」

「母の村」 群読者／ 華原倫子 こまつかん せきぐ
ちさちえ まきののぶ

（日本詩人クラブ山梨山梨会員・・・山梨県
詩人会会員） 〈チェロ・作曲〉山本 護

第3部 16時20分～17時00分

甲州弁で語る「甲斐の民話」 「甲斐の湖」「山の背くらべ」
「運のいい漁師」 山梨むかしがたりの会主催 藤巻愛子氏

歌 「私の好きな街」「鬼踊りの歌」「明日に」 チャイルド
フッドの皆さん

時期大会 紹介 鹿児島県詩人協会会長 高岡 修

閉会のことば 山梨大会副実行委員長 安藤一宏

懇親会 18時00分～20時00分

会場 談露館 甲府市丸の内1-19-16（市役所東通り） ※
桜座から徒歩4～5分

電話 055-237-1331

司会 安藤一宏 名取夏美

オープニング 甲府囃子 甲府囃子保存会の皆さん（甲府市指定無形文化財）

開会のことば 日本詩人クラブ理事 禿 慶子

実行委員長あいさつ 古屋久昭

乾杯 宴会 元山梨県詩人会会長 笠井忠文

スピーチ 県外参加者 遠隔地参加者

閉会のことば 山梨大会副実行委員長 こまつかん

二次会 20時30分～ 甲府ワシントンホテルプラザ13階 居酒屋「銀座八丁」

会費 2,000円 電話 055-232-0305

宿泊 甲府ワシントンホテルプラザ

甲府市中央4-3-5 電話 055-232-0410

観光 5月10日（日） 8時30分～15時00分

コース 8時30分 ホテル出発⇒ 甲府城⇒昇仙峡⇒金桜神社⇒円
右衣文（昇仙峡開拓者）伝承館⇒仙娥滝

昼食（橋本屋）⇒影絵の森美術館⇒甲州夢小路（JR甲
府駅隣接） 甲府駅着15時00分 解散

※10人以上希望者があった場合は、希望者は⇒県立文
学館・美術館へ⇒甲府駅着17時0分



桜座



桜座 中央ステージ



雨宮慶子氏（第1部司会）



古屋久昭 山梨大会実行委員長（開会のこと
ば）



つ) 細野豊会長（主催者あいさ



樋口雄一 甲府市長（来賓祝辞）



川中子義勝理事長（理事長報告・役員紹介）



柴田三吉氏（自作詩朗読・第48回日本詩人クラ

ブ賞受賞)



石下典子氏（自作詩朗読・第25回日本詩人クラブ新人賞受賞）



(左)

対談 「詩をいかに醸成させる

か」

対談テーマは、山梨大会の副題でもある「詩をいかに醸成させるか」。お二方は、時前に

シナリオ的なものは作らず、テーマにそって自由に語り合おうと決められたそうです。

「醸成」とは、原料やお酒を発酵させてお酒や醤油などを作ること。転じて、ある状態、ある

いは気運を作り出すこと。詩作に置き換えるなら、推敲という作業に関わってきます。言葉を

綴る上での醸成とは、意図しないような変化が時間とともに生じてくる。そこを起点に、お二人

の話は、次第に詩作の上での「時間」というものに移っていきました。どの次点で、自分の内

的衝動を出すか。あるいは、出来上がった作品を、どのように自分の中で醸成させていくの

か。そこには「時間」というものの醸す質も問われてくるのではないか。お二方は、それぞれ

絵もお描きになる（瀬崎氏は水彩画、尾世川氏は油絵）。絵の作画法も絡めながら、作品が

深まっていく過程を探っているようでもありました。

お二人のテーブルには、山梨産のワインが置かれていました。、ワインを賞味しつつの、瀟

洒かつ興味深い対談だったと思います。



桜座 栈敷席

桜座は、古い芝居小屋を彷彿させる造りでした。1階の栈敷席は畳敷きになっており、靴を脱いで来場します。演劇、芝居の他、音楽ライブの公演にも使われているようです。入り口には、ライブのチラシがたくさん置いてありました。



青柳和枝氏（第2部司会）



三枝昂之氏

講演 「山河の詩情」

三枝氏は、山梨県立文学館館長で、歌人でもいらっしゃいます。氏曰く、短歌は「終わり」が
予め用意されている。現代詩は、どのように終わるのだろう。これは
歌人にとっての関心ごと
のひとつです。そんな話題から、本題に入っていました。
歌人としても影響を受けたという山梨県出身の俳人飯田龍太の句を
紹介しながら、山梨県
人が、いかに山と関わりがあるかについて、飯田龍太の句を紐解きな
らから解説をされます。
その山河への思いは、やがて歌人斉藤茂吉の山形の自然を歌った短歌
へと繋がっていく。
太平洋戦争を挟み、敗戦後の茂吉の傷心を、山形の山河がいかに支え
たか、実際に短歌作
を鑑賞しながら、人にとっての精神風土の大切さを問われていまし
た。
三枝氏の語り口には飄々としたユーモアがあり、栈敷席からも時折
笑いがもれてきました。

冒頭で三枝氏の紹介された飯田龍太の句です。

水澄みて四方（よも）に関ある甲斐の国



小野ちとせ氏（自作詩朗読・埼玉）



酒井力氏（自作詩朗読・長野）



佐藤光江氏（自作詩朗読・静岡）



山崎啓氏（自作詩朗読・岐阜）



山本護氏（チェロ演奏）



群読

左側より まきののぶ氏・せきぐちさちえ氏・こまつかん氏・華原倫子氏

石原武詩集より「冬芝居にもうしばらく」「扇状地」「母の村」

甲府市出身、元日本詩人クラブ会長である石原武氏の作品から3作品を、4氏の群読に

よりご披露いただきました。チェロ奏者、山本護氏の演奏をバックにした語りです。4氏の呼

吸が合った、端正な群読でした。



目黒容子氏（第3部司会）



藤巻愛子氏（山梨むかしがたりの会主宰）

甲州弁で語る「甲斐の民話」

「甲斐の湖」「山の背くらべ」「運のいい猟師」の3編を、甲州弁で語ってくださいました。まるで、

栈敷席にいる一人ひとりに向けて語られているような親近感がありましたね。藤巻氏の柔和な面

持ちのせいもあります。一人芝居をそっと聴いているような、そんな雰囲気がありました。根底に

あるのは、日本人としての郷愁感なのでしょう。



チャイルドフットの皆さん

(歌)

チャイルドフットは、男女3人組の若手音楽ユニット。山梨県で開催された「国民文化祭2013」

のイメージソングに選ばれた「私の好きな街」、そして「明日に」「鬼踊りの歌」の3曲を歌ってください

ました。軽快で、リズムを効かせた歌声と演奏でした。演奏終了後、アンコールの声もかかりました。

「私の好きな街」の、こんな歌詞が印象に残っています。

「あなたはこの街でいちばん好きな場所は どこ？／私は優しい人たちがいるこの街が好き／だから

大切にしたい／この場所で過ごす時間」



高岡修 鹿児島県詩人協会会長（次期大会 紹介）

時期の、国民文化祭、地方大会の開催地である鹿児島より高岡修氏が駆けつけてくださいました。「この3分間のために鹿児島よりやってまいりました！」という氏のスピーチに、栈敷席から大きな拍手がわきました。



安藤一宏 山梨大会副実行委員長（閉会の言葉）



懇親会オープニング 甲府囃子保存会の皆さんによる演奏



安藤一宏氏（左） 名取夏美氏（懇親会
司会）



禿慶子 地方大会担当理事（開会のことば）



古屋久昭 山梨大会実行委員長（挨拶）



笠井忠文 元山梨県詩人協会会長（乾

杯)



志賀英夫氏（スピーチ・大阪）



薬師川虹一氏（スピーチ・京都）



吉田隼平氏（スピーチ・広島）



ジ



山梨県詩人会の皆さんによる「武田

節」



高岡修 鹿児島県詩人協会会長（一本締め）



こまつかん 山梨大会副実行委員長（閉会のことば）

懇親会は、会場を談露館に移し、まず甲府囃子保存会の皆さんの力強い演奏により迎えられ

ました。禿慶子地方大会担当理事による開会のことば、笠井忠文元山梨県詩人会会長の乾杯

の後、懇親会が始まりました。シャンソン歌手小倉浩二さんのステージ、山梨県詩人会の皆さんに

よる合唱など、とても和やかな宴となりました。閉会のことばは、こまつかん山梨大会副実行委員

長。大会、懇親会、ともに盛況でした。

実行委員の皆様のご努力を実感した次第です。

(長谷川忍・記)

懇親会風景













第37回 詩のサロン

日 時 5月14日(木) 18:00~20:00
(会費500円)

会 場 日本詩人クラブ事務所

内 容 名詩の鑑賞と朗読

「天野英の世界」 テーマ：詩が生まれる

とき

ゲスト 天野英氏



天野英氏





(社)日本詩人クラブ例会・イベント 2015年6月

第38回 詩のサロン

日 時 6月11日(木) 18:00～20:00(会費500円)

会 場 日本詩人クラブ事務所

内 容 詩画集『人体詩抄』新川和江/詩・甲斐清子/画 の鑑賞
『詩・画集大成』M企画 丸山あつし編 の鑑賞





土濱純代氏



感謝状の授与 比留間一成氏(左) ささきひろし氏(右)



抄』、
川
詩が
ソロ
それ
代氏よ
間一
務め

今月は、詩画集の特集でした。新川和江、甲斐清子、両氏のコラボレーションによる『人体詩抄』、丸山あつし氏の編集による『詩・画集大成』の二冊です。『人体詩抄』は、甲斐清子氏の画に新和江氏が詩作品を添えたものです。人の肢体にスポットを当てた作品集ですね。両氏の画と互いに呼応し合い、瑞々しく、肉感的な魅力に溢れています。『詩・画集大成』は、詩と画のアンジーです。122名の詩人、画家諸氏が参加されています。この日は、両書の作品をメンバーがそれぞれ朗読し、感想を述べ合いました。合間に、サロンの常連メンバーでソプラノ歌手の土濱純り、歌をご披露いただきました。

三年間続いてきた詩のサロンでしたが、今月が最終回です。最後に、顧問を務められた比留成氏に、ささきひろし理事より感謝状が贈られました。ささき理事、比留間さん、そして世話役をられた、中村吾郎理事、鈴木昌子さん、お疲れ様でした。

(長谷川忍・記)

第66回 総会

日 時 6月13日(土) 14時開催

会 場 東京大学駒場 I キャンパス 18号館ホール

次 第

司会 中村 吾郎 理事

- | | |
|--|------------|
| 1 開会の言葉 | 中村 吾郎 理事 |
| 2 資格確認 | 川中子義勝 理事長 |
| 3 会長挨拶 | 細野 豊 会長 |
| 4 物故詩人への黙禱 | 細野 豊 会長 |
| 山名キミ子、山名将治、瀬谷耕作、佐藤孝、名古屋哲夫(永年会員)、青木洋子、久間カズ | |
| 大塚理枝子、田代芙美子、笹本正樹、山崎佐喜治、松下のりを、高橋良雄(名誉会員)、森常 | |
| (名誉会員)、原健十三(会友)、の各氏。 | |
| 5 議長団選出・挨拶 | |
| 6 議題 | |
| (1) 事業実績 | |
| (ア) 概況 | 川中子 義勝 理事長 |
| (イ) 法人 | 川中子 義勝 理事長 |
| (ウ) 例会 | 鈴木 豊志夫 理事 |
| (エ) 詩界(研究会)・ホームページ | 長谷川 忍 理事 |
| (オ) 第48回日本詩人クラブ賞 | 高岡 利三郎 理事 |
| 第25回日本詩人クラブ新人賞 | |
| 第15回日本詩人クラブ詩界賞 | |
| (カ) 広報(詩界通信) | 村尾 イミ子 理事 |
| (キ) 国際交流 | 谷口 ちかえ 理事 |
| (ク) 詩書画展 | 小川 英晴 理事 |
| (ケ) アンソロジー(『日本現代詩選』) | 中井 ひさ子 理事 |
| (コ) 地方大会 | 禿 慶子 理事 |
| (サ) 詩の学校 | 庄司 進 理事 |
| (シ) 詩のサロン | ささき ひろし 理事 |
| (ス) 入会 | 北岡 淳子 理事 |
| (セ) その他 | 川中子 義勝 理事 |
| (2) 平成26年度決算報告 | 黒羽 由紀子 理事 |
| (3) 平成26年度監査報告 | 狩野 敏也 監事 |
| (4) 規約の改正について(案) | 川中子 義勝 理事 |

長
長
長
長
事

(5) 平成27年度事業計画(案)

川中子 義勝 理事

(6) 平成27年度予算(案)

黒羽 由紀子 理事

(7) 会員の意見・消息

川中子 義勝 理事

7 議長団解任・挨拶

8 永年会員の顕彰

細野 豊 会長

9 海外客員会員の推挙・承認(案)

川中子 義勝 理事

10 新役員の承認について(案)

細野 豊 会

11 閉会の言葉

金堀 則夫 理



中村吾郎理事(司会・開会の言葉)



細野 豊会長(挨拶)



議長団・倉田武彦氏(右)鈴木昌子氏(左)



川中子義勝理事長(概況報告)



鈴木豊志夫理事(例会)



長谷川忍理事(詩界・ホームページ)



高山利三郎理事(三賞)



村尾イミ子理事(広報・詩界通信)



谷口ちかえ理事(国際交流)



中井ひさ子理事(アンソロジー・日本現代詩選)



禿 慶子理事(地方大会)



庄司 進理事(詩の学校)



ささきひろし理事(総務・詩のサロン)



北岡淳子理事(入会)



黒羽由紀子理事(決算報告)



狩野敏也監事(監査報告)



総会風景





質疑応答



永年会員の顕彰(我妻信夫氏)



永年会員の顕彰(小松弘愛氏)



永年会員の顕彰(小柳玲子氏)



永年会員の顕彰(戸上寛子氏)



永年会員 ご出席の皆様



新役員の紹介



金堀則夫理事(閉会の言葉)



懇親会風景



懇親会風景

(社)日本詩人クラブ例会・イベント 2015年7月



新理事長・太田雅孝



新会長・武子和幸

新会長・新理事長による特別記念講演へのご参加、ありがとうございました。
内容は、下記の要領で滞りなく、無事終了いたしました。(shots by I. M.)

(社) 日本詩人クラブ 7月例会のご案内

日時 2015年7月11日(土)14時～17時 会員・会友無料 一般500円

場所 東大駒場 18号館ホール 構内地図は5月送付の7月例会のご案内にあります。

京王井の頭線「駒場東大前」下車。東大正門右手直進。イチョウ並木通りを抜けて、21KOMCEEを左折。構内で一番高い建物(18号館)の一階がホール。

懇親会は同館 3F オープンスペースで 17時～19時 会費 3,000円

特別記念講演

講演「人間の経験を救い出す試み」 講師 太田雅孝 氏

講師プロフィール 1952年東京生まれ。現在、大東文化大学文学部日本文学科教授(比較文学・文化、近現代詩)。元十七世紀英文学会会長。英米詩専攻、特に W.H.オーデン研究。最近は「形而上詩の＜現在＞」と称する連作評論を執筆中(論集『日本文学研究』大東文化大学)。(社)日本詩人クラブ詩界賞選考委員(第13～15回)。

主な著書：詩集『あんぷく』(国文社)、共編著『幻実の詩学』(ふみくら書房)、共編著『読みの軌跡』(弓書房)、共著『＜身体＞のイメージ』、共編著『たのしく読める英米詩』、共編著『概説イギリス文化史』、共編著『英語文学辞典』(以上4冊ミネルヴァ書房)。共編共訳著『ポール・マルドゥーンとの出会い』、共編訳『マルドゥーン詩選集』(以上2冊、国文社)。共著『変容する悲劇』(松柏社)などがある。

特別記念講演

講演「現実と非現実——W・B・イエイツを通して詩を考える」

講師 武子和幸 氏

講師プロフィール 1938年東京生まれ。小学生の頃から茨城で育つ。

『白亜紀』編集責任者。詩集『ひとつ火燭して』(1970 国文社)、『懸崖の風景』(1976 無限刊)、『薇その他』(1981 国文社)、『蛞蝓の夢』(1990 国文社)、『プリュージェルの取税人』(2000 思潮社)、『アイソポスの蛙』(2008 思潮社)(詩と創造賞)

評論集『イエイツの影の下で』(1998 国文社)

訳書：ウィリアム・エンブソン著『曖昧の七つの型』(1972 星野徹と共訳、思潮社)

ジェイムス・リーヴズ著『詩がわかる本』(1993 思潮社)

共編著『喪神の彼方を——21世紀への詩・短歌・評論』(1991 国文社)ほか。(文責 T.S)

大使館主導の「インド文学祭」に関して： 派遣（7.11、大使館で）と、来日した代表団を迎える会（7.13、東大駒 場）

★インド大使館主催「日印文学祭2015」に、プレゼンターを派遣

7月11日（土）10時～17時

インド大使館ヴィヴェーカーナンド・カルチャー・センター（VCC講堂）

インド文科省の支援で、インド国立文学アカデミーが組織し、駐日インド大使館主導で行われた「日印文学祭2015」に、日本詩人クラブからは、橋浦洋志氏と、文学院前会長シュニル・ゴンゴパッダエ氏を迎えたときに協力していただいた国際啄木学会会長・池田功氏を講師として派遣した。

★日本詩人クラブ主催「インド文学最前線—フロントランナーとの対話と交流」

7月13日（月）13時半～17時半

東大駒場18号館3F コラボ3

上記がクラブの例会と重なったため、クラブ独自でインドからの代表団6人（文学院院长・事務局長・詩人たち）と大使館からのお二人をお迎えし、日本詩人クラブとしてのトークと交流の会を持った。決まったのが7月1日で、広くご案内できなかったことをお詫びします。内容は以下の通り。

インド文学最前線—フロント・ランナーとの対話と交流

日時： 7月13日（月）13:30～17:30

会場： 東大駒場18号館3F コラボ3

プログラム： 13:30～17:30

- ・ 歓迎の辞 （社）日本詩人クラブ会長・武子和幸 進行紹介 谷口ちかえ
- ・ ご挨拶 駐日インド大使館 ムアンブイ・サイウアイ 一等書記官
- ・ ご挨拶 サヒティヤ・アカデミー秘書 Dr. K・シュリーニワース・ラオ
&インドからの参加者紹介——デリー大学日本文学Prof. U・サッチダナンド
- ・ 小講演 橋浦洋志「言葉は思想の寡婦 Words are the Widows of Thought」
- ・ Vishwanath Prasad Tiwari, Suresh Rituparna, K. Sreenivasa Rao
—————休憩—————
- ・ 小講演 麻生直子「祈りの水先案内人 Torchbearers of Player」
- ・ Lalit Magotra(Dogri writer), Hemant Divate (Marathipoet), Unita Sachidanand
- ・ 詩の朗読 クラブの先達詩人および他の先達詩人の英詩紹介

西條八十&新川和江&タゴールー谷口、エドモンド・ブランデンー細野 豊、土井晩翠ー結城 文、
宮沢賢治ー森 三沙
・閉会の辞 清水茂

(順番と細部の内容は予告なく、変わることがあります)

歓迎レセプション： 18:00～20:00

司会：北岡淳子+ウニタ・サッチダナンド

於：ファカルティ・ハウス セミナー・ルーム

冒頭の挨拶 比留間一成

スピーチ サヒティヤ・アカデミー会長 ヴィスワナート・ティワリ

・スピーチ続き

・自作詩の朗読（基本的に英語で。武西良和・対馬正子・細野豊・裕杏子.....他 ）

・合唱「西條八十の詩」ほか——「歌を忘れたかなりや」「さくらさくら」

最後の挨拶 理事長・太田政孝



インド文学祭画像 (大使館で)



Embassy of India
Tokyo
在日インド大使館



Vivekananda Cultural Centre
インディア・カルチュラル
センター (VCC)



Cordially Invites You to

インド大使館より御招待申し上げます。

INDIA - JAPAN LITERARY FESTIVAL 2015

印日文学祭2015

Date: 11 July 2015 日程 2015年7月11日 (土曜日)
Venue: VCC Auditorium, Embassy of India
場所: インド大使館 VCC 講堂

Programme will be translated プログラムには日英通訳が付きます。

1000 to 1020 Opening Remarks by Ambassador & Dr. K. Sreenivasarao, Secretary, Sahitya Akademi

駐日インド大使とサヒティア・アカデミー事務局長、K. スリーニヴァサラオ博士による開会の辞

1020 to 1030 Small Break 休憩

1030 to 1200 Session 1 Panel Presentation on Indo-Japanese Literature: Historical Links and Future Challenges

セッション1: インド - 日本文学についてのパネル・プレゼンテーション: 歴史的な繋がりと将来の課題

1200 to 1215 Small Break 休憩

1215 to 1315 Reading Programme 朗読プログラム

1315 to 1430 Lunch Break 昼食

1430 to 1600 Session-II Panel Presentation on Sutra, Kural and Haiku: Influence of Indian Poetry on Japanese Poetry

セッション2: スートラ、クラル、俳句についてのパネル・プレゼンテーション: 日本の詩におけるインドの詩の影響

1600 to 1700 Reading Programme 朗読プログラム



FREE Admission/入場無料

Indian Presenters (インドのプレゼンター)

1. Dr. Vishwanath Prasad Tiwari, President, Sahitya Akademi
2. Dr. Suresh Rituparna, Noted Hindi Writer
3. Ms. Unita Sachidanand, English Writer
4. Prof. Lalit Mogotra, Dogri Writer
5. Sri Hemant Divate, Marathi Writer
6. Dr. K. Sreenivasarao, Secretary, Sahitya Akademi

Japanese Presenters (日本のプレゼンター)

1. Dr. Masatoshi Ueki, Researcher on Buddhism thoughts
2. Prof. Hiroshi Hashiura, Ibaragi University
3. Prof. Toshio Kimura, Nihon University
4. Prof. Seiichi Murao, Tokyo University of Foreign Studies
5. Prof. Kyoko Niwa, Tokyo University of Foreign Studies
6. Prof. Mami Yamada, Meiji Gakuin University
7. Prof. Isao Ikeda, Meiji University

Please Confirm Your Attendance Prior to 08 July RSVP: Mr. Naoshige Ono

7月8日までに出席をお知らせください。

担当者・小野尚重宛てにご返信ください。

Phone: 03-3262-2397 Extn. 410 Fax: 03-3263-5285 email: icc@indembassy-tokyo.gov.in
2-2-11 Kudan Minami, Chiyoda-Ku, Tokyo 102-0074 東京都千代田区九段南2-2-11 (千鳥ヶ淵)

Note: Large bags, Cameras, Recording equipment and Food & Drinks are NOT allowed inside the Auditorium.

大型のバッグ、カメラ、録画機能のついた機械の持ち込みはお断りしております。



右から駐日インド大使ワドワ閣下、サヒティ・アカデミー代表Dr. V. P. ティワリ氏、事務局長Dr.K. スリーニヴァサラオ氏



日本人7人&インド人6人の発表者たち（一会長）＋ラム参事官（左端）・サイウォイー等書記官（中央）

(社)日本詩人クラブ例会 2015年9月

三賞受賞記念講演を兼ねた9月例会は無事、終了いたしました。

出席者は、講演会&朗読 65 名、懇親会 34 名。ご来場、ありがとうございました。

以下に、当日の写真をアップしました。



武子会長の挨拶



朗読1・鶴飼千代子氏



朗読2・鈴木昌子氏



司会
長尾雅樹氏・川崎芳枝氏



日本詩人クラブ新人賞
受賞記念小講演
石下典子氏



日本詩人クラブ詩界賞
受賞記念講演
富岡悦子氏



閉会の辞
総務・長谷川忍氏

(社)日本詩人クラブ 2015年 9月 例会のご案内

日時 2014年9月12日(土) 14時～17時

会員・会友無料 一般500円

会場 東大駒場 18号館ホール

京王井の頭線「駒場東大前」下車。東大正門右手直進21KOMCEE左手横。徒歩4分

例会終了後、同会場3Fで交流会（懇親会）があります。会費3,000円

詩朗読 & スピーチ 鶴飼千代子氏（印西市）
鈴木 昌子氏（さいたま市）

第25回日本詩人クラブ新人賞受賞記念小講演

『花は詩人になにを咲かせるか』

講師・石下典子氏

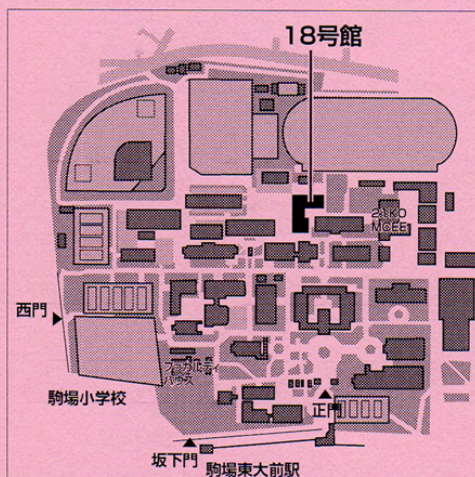
講師プロフィール 1954年栃木県生まれ。日本詩人クラブ、日本現代詩人会、日本文藝家協会会員。詩誌『墓地』同人。個人詩誌『淵^{りん}』発行。詩集に『花の裸身』（1991年龍詩社・第26回栃木県現代詩人会新人賞）、『神の指紋』（2008年コールサック社）。2014年刊行の詩集『うつつみ』（歩行社）にて第25回日本詩人クラブ新人賞を受賞。

第15回日本詩人クラブ詩界賞受賞記念講演

『詩は誰に宛てられているか—『パウル・ツェランと石原吉郎』から』（仮題）

講師・富岡悦子氏

講師プロフィール 1959年東京都生まれ。明治大学大学院文学研究科（ドイツ文学専攻）博士後期課程単位取得。現在鶴見大学文学部教授。日本詩人クラブ会員・理事、日本現代詩人会会員。日本独文学会、日本比較文学会他所属。主な著書に『植物詩の世界—日本のこころ・ドイツのこころ』（2004年神奈川新聞社）、『自然詩の系譜』（共著 2004年みすず書房）、『ツェラーンを読むということ—詩集「誰でもない者の薔薇」研究と注釈』（共著 2006年中央大学出版部）、『カフカ・シンポジウム』（共著 2010年日本独文学会叢書）、他研究論文多数発表。詩集『椿葬』（2007年七月堂）。2014年刊行の詩論『パウル・ツェランと石原吉郎』（みすず書房）にて第15回日本詩人クラブ詩界賞受賞。



例会担当理事 富岡悦子

(社)日本詩人クラブ例会・イベント 2015年10月

第九期「詩の学校」第一回 「詩の方法」

去る10月24日（土）の14時から、日本詩人クラブ神楽坂事務所において、第九期の開校式を兼ねた第一回「詩の学校」が、37名（一般15名）の参加者を迎えて行われた。新聞記事を見て、申込みをされた方も複数名いて、今後の運営にはずみをつけるように会場は補助椅子が足りないほどの盛況となった。

司会の八角実行委員が口火を切り、林「詩の学校」担当理事の紹介があつて、校長を兼任する武子日本詩人クラブ会長が開講の言葉を述べられた後、「私たちはどのような時に詩を感じるか」という、詩に向かおうとする者みんなを引き付けるタイトルで講演された。

質疑応答を含めてほぼ定刻に、副校長の太田理事長の締め言葉で、終始なごやかで有意義な二時間半は、お開きとなった。

これから三月までの残り五回、新顔を加えてますます充実した会となるように願っています。
みなさまのご参加をお待ちしています。

（リスト・ページを参考され、お申込みは「詩の学校」担当・林哲也理事までお願いします）

林哲也 〒364-0007 北本市東間8-90-65
Email: te-hayashi0124@nifty.com



教室風景1



教室風景2



司会・進行/八角正大



担当理事/林哲也



校長・第一回講師/武子和幸



副校長/太田雅孝

「国際交流スペイン」報告（10月10日実施）

日本詩人クラブとセルバンテス文化センターの共催で行われた「国際交流スペイン」は、見ごたえのあるフラメンコと、熱のこもった朗読の数々も含め、好評のうちに無事終了いたしました。

ほぼ満席となったセルバンテス文化センター地下ホールでも、本会の後で懇親会会場となった同会館7階の「メソン・セルバンテス」でも、みなさまで有意義でホットな時間を分かち合いました。

まずは以下に、当日の写真をアップしてご報告に変えます。

●セレモニー・主講演・朗読●



歓迎の辞および詩朗読
アントニオ・ヒル館長



開会の辞・武子和幸会長



駐日スペイン大使館
公使参事官カルロス・マルドナード



来賓挨拶
日本現代詩人会・以倉紘平会長



主講演冒頭スピーチ
ツーショット「Yutaka y Pedro」



ベドロ・エンリケス氏による
講演冒頭



講演中のスクリーン1
若き日のカルン・ロルカ



講演中のスクリーン2
晩年のペビン・ページョ



会長からプレゼント贈呈



会場風景 1



会場風景 最前列



閉会の辞
太田雅孝理事長

●フラメンコ（鍵田真由美とアレテ イ ソレラ）●



鍵田真由美さん



上の画像はサムネイルのサンプルです。クリックすると拡大します。

●パーティ風景●



●当日のちらし●



(社) 日本詩人クラブ・セルバンテス文化センター東京／共催

国際交流スペイン 2015



ガルシア・ロルカ生誕の地グラナダの代表的現代詩人 ペドロ・エンリケスを迎えて

世界三大文豪の一人、セルバンテスを輩出したスペインは文学大国です。この度、スペイン国内やアメリカなどを訪れて、常に詩者である民衆に寄り添いつづけた天才詩人ガルシア・ロルカ生誕の地グラナダの、代表的現代詩人ペドロ・エンリケス氏を招聘し、交流することとなりました。この特人はスペイン国内で活躍するとともに、ラテンアメリカ、アラブ圏、アフリカなどを頻りに訪れ、鋭く繊細な感性によって詩作し朗読しつつ、詩人や市民たちと交流しています。今回の有意義な国際交流行事にみなさまのご参加をお待ちしています。

記

10月10日(土) 14:00～17:00 於:セルバンテス文化センター東京 B1Fホール

★講演会

第1部: 招聘詩人ペドロ・エンリケスの講演「スペインの近・現代詩とガルシア・ロルカ」(仮題)

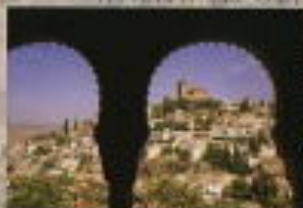
第2部: フラメンコ公演と詩の朗読—出演: 健田真由美舞踊団(予定)ほか

★懇親会 17:30～19:30 同センター内レストラン「メゾン・セルバンテス」7F

10月11日(日) 講演詩人会との交流会(一般参加歓迎)

10月12日(月) 招聘詩人とともに座談会 於: 永平寺東京別院長谷寺(有志の参加歓迎)

10月10日・11日・12日の土・日・月曜開催ですが変更はありますが、その場合は一週間前までに発表されることとなります。



お問い合わせ先

お申し込み・資料の請求をご利用ください

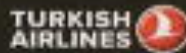
国際交流担当理事・堀野 澄 FAX: 045-965-3735

E-mail: Yutaka.Hosono@sybasco@ccs.cst.go.jp



【セルバンテス文化センター東京へのアクセス】

●東京メトロ有楽町線「麹町駅」5.0 番出口より徒歩3分 ●JR/東京メトロ有楽町線・南北線/都営新宿線「市ヶ谷駅」より徒歩6分 ●JR/東京メトロ丸の内線・南北線「四ツ谷駅」麹町出口より徒歩7分
〒102-0085 東京都千代田区六本木2-9 Tel 03-5530-1900



後援: 日本現代詩人会 / 協賛: ターキッシュ・エアラインズ

[[トップページ](#)]

(社)日本詩人クラブ例会・イベント 2015年11月

第九期「詩の学校」第二回 「詩と詩人」清水茂講師

去る11月28日（土）の14時～16時40分まで、日本詩人クラブ神楽坂事務所において、第二回「詩の学校」が、クラブの前会長・早稲田大学文学部仏文学名誉教授の清水茂氏を講師として行われた。前回に引き続き、大勢の参加者（合計31名）を迎え、充実した会となった。

講演は、夭折の天才少女サビーヌ・シコー（Sabine Sicaud, 1913.2～1928.7）について——6歳で詩作を始め、15歳で亡くなったサビーヌの詩を、フランス語の原詩と講師による翻訳を共に聞きながら鑑賞した（日本語訳の朗読は小野ちとせ氏）。

ヨーロッパの有名詩人に名を連ねているわけではないが、天才と謳われるその作品には、われわれが詩を書くことの源泉、つまり自分に詩をうながしているものは何かを考えさせるものがある。



授業風景 1



授業風景 2



右から、司会・進行/八角正大・担当理事/林哲也
鈴木昌子・倉田武彦各氏



11月例会

去る11月14日（土）14:00～17:00、東大駒場18号館ホールで、11月例会が実施されました。参加者は77名。

本年度の日本詩人クラブ賞を受賞された柴田三吉氏の受賞作『角度』にちなんだ講演会「東日本大震災と向き合って」、およびこの秋に『リルケ 現代の吟遊詩人』を出版された神品芳夫氏の小講演「現代の吟遊詩人リルケ、感想と朗読」。神品氏が原文を、庄司進氏が翻訳詩を披露した朗読コラボが好評でした。

恒例の朗読者お二人は、今回は和歌山と青森の遠隔地から参加された武西良和氏と船越素子氏。いずれのプログラムも好評のうちに、無事、終了いたしました。

♣ 例会終了後、18号館4Fで、オープンスペースで交流会を行いました。（46名）



武子会長の挨拶



朗読1・武西良治氏



朗読2・船越素子氏



小講演と原詩朗読・神品芳夫氏



リルケの翻訳詩朗読・庄司進氏



樹氏・川崎芳枝氏

お願い： 小野ちとせ氏



司会： 長尾雅

会計からの報告と

コラボの後は……



司会： 長尾氏・川崎氏



講演「東日本大震災と向き合って」 柴田三吉氏
理事長



閉会の辞・太田雅孝

（社）日本詩人クラブ 2015年 11月 例会のご案内

日時 2015年11月14日(土) 14時～17時 会員・会友無料 一般500円
会場 東大駒場 18号館ホール
京王井の頭線「駒場東大前」下車。東大正門右手直進21KOMCEE左手横。徒歩4分
例会終了後、同会場4Fで交流会（懇親会）があります。会費3,000円

詩朗読 & スピーチ 武西良和氏（岩出市）
船越素子氏（弘前市）

小講演

「現代の吟遊詩人リルケ、感想と朗読」

講師・朗読 神品芳夫氏 朗読 庄司進氏

講師プロフィール 神品芳夫（こうしな よしお）氏

1931年東京都生まれ、東京大学大学院独語独文学専攻博士後期課程修了。東京大学教授、明治大学教授を歴任。
2005年、編著『自然詩の系譜—20世紀ドイツ詩の水脈』（みすず書房）にて第5回日本詩人クラブ詩界賞受賞。
著書に『リルケ研究』、『詩と自然—ドイツ詩史考』、『ドイツ 冬の旅』（いずれも小沢書店）。訳書にリルケ『マルテの手記』（学研）、ゲーテ『若きヴェルターの悩み』（潮出版社）、ヘッセ『郷愁』（中央公論社）、ホフマン『黄金の壺』（岩波書店）、『リルケ詩集』（小沢書店／新版・土曜美術社出版販売）ほか。
今年9月に青土社から『リルケ 現代の吟遊詩人』を刊行。

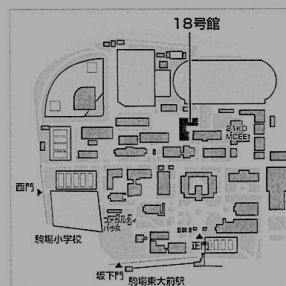
講演

「東日本大震災と向き合って」

講師 柴田三吉氏

講師プロフィール 柴田三吉（しばた さんきち）氏

1952年東京都生まれ、東京都立蔵前工業高校卒。東京写真専門学校でドキュメントを学ぶ。75年銀座ニコンサロンにて、写真展『菊華—戦後30年を経た日本人』。77年より詩を書き始める。90年、詩集『さかさの木』で壺井繁治賞、日本詩人クラブ新人賞受賞。98年、詩集『わたしを調律する』で地球賞受賞。2015年、詩集『角度』（ジャンクション・ハーベスト）で第48回日本詩人クラブ賞受賞。詩集のほか『柴田三吉小説Ⅰ・Ⅱ』（ジャンクション・ハーベスト）。詩人会議、詩人クラブ、現代詩人会会員。詩誌『ジャンクション』同人。



例会担当理事 雷岡悦子

(社)日本詩人クラブ例会・イベント 2015年12月

第九期「詩の学校」第三回 「受講生の作品」 竹内美智代講師

大晦日を直前にした12月26日（土）、それでも26名の参加者が集い、充実した作品研究が行われました。

16作品が配布されましたが、当日の欠席者が2名。それぞれに個性のある作品を「まずはご本人が朗読&ショート・コメント→参加者がフリーに意見交換→予め読みこんできた担当者がコメント（理事中心）→講師からの講評→ご本人の感想」の順番で何重にも多面的な意見が交換されました。

後日、オブザーバーとして出席された今期の「詩の学校」の校長である日本詩人クラブ会長・武子和幸氏から、たいへん質の高い合評会であった、というお言葉をいただきました。

下記に掲載の集合写真は、手順悪く、閉会の後で撮影されたものです。失礼いたしました。

次回の第四回「詩の学校」（1月23日）もおおぜいのご参加をお待ちしています。

林哲也 〒364-0007 北本市東間8-90-65
Email: te-hayashi0124@nifty.com



閉会の後で、記念写真

（以下の方たちは残念ながら帰られた後でした。——武子和幸校長・安藤初美・川崎芳枝・倉田武彦・うづきまりこ・篠田義男・庄司進・原詩夏至・安川登紀子・米田かずみの各氏—なお、谷口ちかえHP担当は撮影）

12月例会・忘年会報告

12月5日（土） 午後2時～午後5時 東大駒場18号館ホール

講演 佐川 亜紀 「韓国・昌原（チャンウォン）KC国際詩文学賞を受賞して—金達鎮（キムダルジン）の詩精神を学ぶ」

朗読 岩井 洋、江口 節、甲斐 知寿子、向井 千代子、内藤 喜美子、三上 透

♣ 例会後に、忘年会 （17:00～19:00） 於：東大駒場交流ラウンジ（学生食堂3F）

以下に、当日の写真をアップしました。



武子会長の挨拶



富岡・例会担当理事



朗読1/岩井洋氏（京都市）



朗

読2/江口節氏（大阪）



朗読3/甲斐知寿子氏（宮崎）



朗読4/向井千代子氏（埼玉）



朗読5/内藤喜美子氏（平塚市）



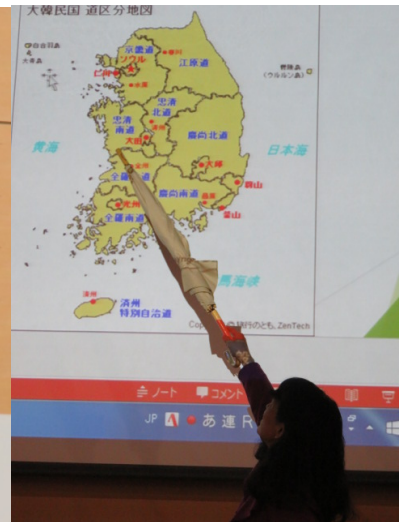
朗読

6/三上透氏（横須賀市）

講演：韓国・昌原KC国際詩文学賞を受賞して佐川重紀氏に)



講演・佐川重紀氏



スクリーン指し棒の用意がなく、

失礼しました



↑昌原（受賞式）



金達鎮（キムダルジン）の詩精神を学ぶ（講演副題、昌原での遺影とともに





↑昌原文化センター（受賞式会場）の展示物

下の写真は、左より金達鎮の詩朗読・なべくらますみ氏、司会と理事長の閉会の辞、会場風景



2015年12月例会ちらし

(社)日本詩人クラブ 12月 例会・忘年会のご案内

●例会 詩朗読と講演

日時 2015年12月5日(土)第1土曜日 14時～17時 会員・会友無料 一般500円

会場 東大駒場 18号館ホール

京王井の頭線「駒場東大前」下車。東大正門右手直進21KOMCEE左手横。徒歩4分

詩朗読 & スピーチ

岩井洋氏 (京都市)

江口節氏 (神戸市)

甲斐知寿子氏 (宮崎県佐土原町)

向井千代子氏 (埼玉県宮代町)

内藤喜美子氏 (平塚市)

三上透氏 (横須賀市)

講演

「^{チャンウォン}韓国・昌原KC国際詩文学賞を受賞して—^{キムダルジン}金達鎮の詩精神を学ぶ—」

講師 佐川亜紀氏

講師プロフィール 佐川亜紀 (さがわ あき) 氏

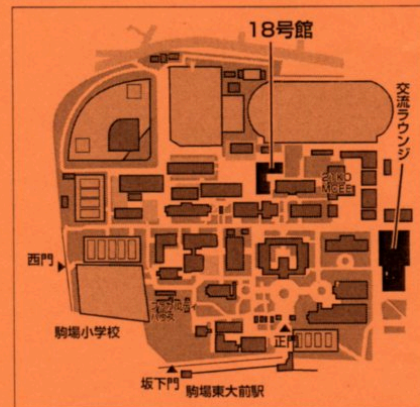
1954年東京都生まれ。1992年、詩集『死者を再び孕む夢』(詩学社、小熊秀雄賞、横浜詩人会賞)、1993年、詩集『魂のダイバー』(潮流出版社)、2004年、詩集『返信』(土曜美術社出版販売、詩と創造賞)、2012年、詩集『押し花』(土曜美術社出版販売、第46回日本詩人クラブ賞)。2000年、評論集『韓国現代詩小論集』(土曜美術社出版販売)。2005年、共編『在日コリアン詩選集』(土曜美術社出版販売、地球賞)。2007年、共訳『高銀詩選集』(藤原書店)、2010年、共訳『日韓環境詩選集』(土曜美術社出版販売)、2012年、共訳『李御寧詩集』(花神社)他。2014年に韓国・昌原KC国際詩文学賞受賞。韓国語詩集に『死者を再び孕む夢』(韓成禮訳・叙情詩学)。「詩と思想」編集参与。日本現代詩歌文学館評議員。2015年8月に翻訳『慕わしい世界があるから 月下 金達鎮詩人の詩と生涯』(土曜美術社出版販売)を刊行。

●忘年会

日時：例会終了後 17時～19時

会費：4,000円

会場：東大駒場 交流ラウンジ
(学生食堂3F)



例会担当理事 富岡悦子

[\[トップページ \]](#)